

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ 1階ユニット		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10-17		
自己評価作成日	令和3年3月4日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170200802-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和1年10月に、篠路から新築移転をしました。既存の入居者はもちろん、増床をし以前の1ユニットから2ユニットになり広々と新しい施設で穏やかに過ごしています。住宅街ということもありとても静かな場所です。JR拓北駅も徒歩5分ほどです。緑が多くあり春夏秋冬を感じることができます。近隣には公園も多くあり、お天気が良い日にはお散歩に行ける環境ですが、移転後やっと雪が解け気温も高くなったころ「コロナ」で外出が出来なくなってしまいました。今後は近隣を散歩してみたり、公園へ行ってみたいと考えています。コロナ禍で実現できていませんが、施設には交流室を設けており、地域の方と繋がりを持てる場所になればよいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム からまつ」は、JR拓北駅から5分ほどの閑静な住宅地に立地している2ユニットの事業所である。近隣にコンビニエンスストアがあり、周囲に公園が多く自然環境にも恵まれている。新築2階建ての1階に「地域交流室」があり、茶話会などで地域住民と交流を図る場として考えている。当事業所は平成14年1月に店舗改造型の1ユニットとして篠路に開設し、令和1年10月に2ユニットとして現地に転居後2年が経過している。建物の屋内は全体的に広々としており、共用空間は明るく快適な造りになっている。管理者は同法人グループホームでの管理職の経験を活かしながら職員と共に、前向きな姿勢で地域に根差したホーム作りを熱心に進めている。転居後に感染症が流行したため外部者との交流は難しいが、事業所内では業務やケアについて職員の提案や意見交換を随時行い、利用者の個々の意向に沿って支援している。レクリエーションや季節の創作活動、食事などが楽しめるように暮らしを充実させている。親身になって利用者や家族に対応し、家族からも信頼されている。地域との関係では、町内会を通して地域住民との交流を具体的に検討中である。地域や自然と触れ合い、利用者が自分らしく過ごす理念の内容に沿って職員は温かく対応し、今後の取り組みに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの壁に掲示しており、共有している。	事業所理念に「地域や自然と触れ合い」という文言が入っている。職員は理念の内容を意識しており、利用者が自分らしく過ごせるように日々実践している。今後は職員入職時や会議などの際に理念を振り返り、共有を深めたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入しており、ご近所との交流があるが、コロナ禍のためそれ以上のことはできていない。	近隣住民と高齢者の対応で近所づきあいをしている。町内会に加入し回覧板で情報を得ているが、感染症流行のため住民との交流は難しい状況にある。今後は近くの保育園に働きかけ、行事などの見学で子供と交流する機会を考えている。	町内会長の協力を得て、相互の行事を通して住民との交流を図り、運営推進会議や避難訓練にも参加が得られるよう地域との関係づくりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者が日中不穏になり、助けを求めホームに来たことが数回あり、ご家族も安心してくださっていたことがありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面会議となり、施設の様子や行事報告、職員状況など報告をしています。返信用封筒を入れるがご家族からの意見や要望などはない	今年度は書面で行い、利用者の状態や行事、タブレット端末での家族面会などを報告し、家族にも議事録と一緒に資料を添えて送っている。今後は会議の議題を事前に送り、参加ができない家族の意見も引き出し会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや区役所など、わからないことを聴いたりアドバイスを貰ったりし協力を得ている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議、また文書会議にも協力を得ている。市の担当者に毎月の利用者状況の報告をメールで行い、市のアンケート調査に協力している。生活保護課担当者とは必要に応じて電話連絡を随時行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時と半年に1度身体拘束についての研修を行って全職員が理解している	身体拘束廃止指針に沿って、役職者で定期的に会議を開催し、利用者の状態について毎月本部に報告している。職員間で「禁止の対象となる具体的な行為」を確認し、拘束をしないケアを行っている。今後は、年2回実施した研修内容を分かりやすくファイルに綴じたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながるような研修し、不適切なケアにならないよう注意をしている		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使用していた入居者もいたため理解のある職員も多い。今後も活用する機会があれば活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学時に、説明を行い契約時にも不安のないように説明している。解約時にも相談に乗りその方にあった環境へ導く努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通信を使って一人一人の状況を書き込んだり、お電話などでも詳しくお話し要望があればすぐに反映できるように努めています。	家族とは感染症の予防から主に電話連絡をし、受診時に玄関先で話し合うこともある。タブレット端末の利用で本人とも会えるように配慮している。「からまつ通信」にメッセージ欄を設けて普段の様子を伝えているが、本人の写真も送る予定でいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から挙がってきた意見や提案には、話し合い調整をかけ、やってみてどうだったかと再度調整し反映している。	今年度は申し送り時や業務の中で意見を交換し、ケアの提案や業務配分の意見を取り上げて試しながら現場が動きやすいように決めている。行政の資料を基に感染症予防の対応を話し合い、統一した方法で職員が安心できるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、休日希望など個々に日ごろから話しており、各自役割をもって努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修やキャリアアップの制度を使い、職員を育てる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為会議などないが、以前北区の役員を行った時の他事業所との繋がりがあるので、時々お話しどんな活動をしているのかなど聴いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から聞き取りを行い、それをもとにご本人との距離を縮めながらご本人が何でも話せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定時からたくさんお話しし、ご家族の不安を取り除くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意向を踏まえたうえで、現状を見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	通信やお電話が来た時などに、ご家族には詳しくお話しを行い集団生活に馴染んでいよう関係を乱さないようお手伝いしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は禁止されていたのですが、希望される家族にはオンラインでの面会や通話、ご家族によってはお手紙を送ってこられるのでご本人にお渡ししご家族との関わりを維持していただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親族との関わりは継続されており、オンラインでの面会にもお孫さんや玄孫との面会もされる方もおり関係は築けています。馴染みの病院へ継続で家族同行し受診をされている方もおり、異変の時にもすぐに対応してもらえ入院を優先してもらえたこともありました。	感染症の流行前には家族と外出している。今年度は知人から年賀状が届く方もいる。訪問理美容や訪問診療は、転居後も継続しており馴染みになっている。家族や職員の同行で受診する際には、車窓から周囲の景色を眺めて季節感を感じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でもいろんな方が居るので対立することも多々あります。個々の性格を把握しておりますので職員はうまく話を方向を変えてみたり、お手伝いをお願いしたりし支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養や特養へ転居された方のところへは、時々面会に行きご家族へのフォローなども支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や状態を確認し、本人の意向に沿うよう努めている。	会話や普段の様子から思いを把握し、センター方式の(B-3)シートに、嗜好や趣味、過ごしてきた習慣などを記入している。今後は個別の思いを具体的に記録し、変化の追記も考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りから、どのような暮らしをしてきたのか、ここに入居するまでの経緯などをみて過ごしやすいようにリズムを作るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人過ごし方は違いますが、その日の体調、表情などにより休息してもらったり、お手伝いを一緒にしたりそれぞれ違います		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、常時身体の状態とを照らし合わせ介護計画を作成している	担当職員のモニタリングをもとに会議で確認し、3か月ごとに介護計画を作成している。記録はタブレット端末で行っている。更新時には家族や本人と意向を話し合い、介護計画書(1表)に記載して計画につなげられるよう、更なる工夫を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使用し記録を入力しているが、特変はケースに入れ、申し送りをし相談し取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望になるべく近づけるよう対応をまずは試してみ、今後へつなげるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しています。コロナ過で何もできていませんが、近隣の散歩や交流室を使用して近隣住民とのつながりを図り楽しんで生活できるようにしたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて家族の希望を報告しながら適切に行っている。	転居後も継続して内科医の訪問診療を受けており、協力医療機関への通院時には事業所に対応している。また専門的な他科受診は家族が同行し、各主治医と連携して健康を管理している。	

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護があるので、その都度一人一人の状態等報告し主治医の方へも伝えてもらったり、適切なケアの仕方を指導していただいたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の医療機関とは、日頃より密に報告連絡相談をしており、信頼関係ができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にはなるべく早い段階で、お話をし主治医と相談をしながら事業所としてできることを入居者、ご家族にも説明をし支援に取り組んでいる。	利用開始時に重度化対応指針を文書で説明し、その際に医療行為などの対応は難しいことも伝えて同意を得ている。現在看取りは行っておらず、状態の変化時には関係者で方針を確認し家族の意向に沿って適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	情報として共有しており、全員が対応できている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、新しい職員にも指導している。	今年度は事業所内で火災を想定した昼夜の自主訓練を行っている。火災以外を想定した訓練は課題になっている。今後は地震を想定し、事業所内の危険箇所の確認や利用者ごとのケア別対応について話し合い、記録にして見直しを考えている。	感染症終息後には、訓練に消防署や町内会役員の参加が得られる工夫に期待したい。また、職員の普通救命講習の実施にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格、性格その時の様子などから言葉かけをし、その方を尊重し対応している。	接遇研修を実施し、禁止語や行動を抑制する言葉かけをしないように指導している。申し送りは、利用者に聞こえないように離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入床時、起床時、入浴時に本音が出やすいため特に入浴時は傾聴をしご本人の思いを受け止める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる範囲でその方の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びなど職員と一緒にいたり、身だしなみなどもお手伝いしています。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様の一番の楽しみが食事なので個々に食べやすい大きさにし、ご自分で召し上がれる工夫をしたり、片付けなど一緒に行っています。	法人の献立を利用し、利用者の好みに応じて調理法を変更したり誕生日は赤飯などでお祝いしている。冷蔵庫の食材を見て献立を考えたり、畑で収穫した野菜が食卓にあがることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が献立を作り、水分は提供した分はしっかり飲んでいただくよう声掛けをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の終わった方から声掛け又は誘導をし口腔内、介助の必要な方にはお手伝いしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表があり時間で誘導する方、あるいは時間が空きすぎているなど確認をトイレでの支援を行っている。	自立している利用者も多く、日中は声かけや誘導が必要な方のみ排泄を記録している。時間帯で排泄用品を替えたり、可能な限り昼夜共にトイレでの排泄を支援して自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量など日々確認しストレッチ体操などを取り入れ、その方に合った方法で予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお誘いをし、気乗りしない際には強要せずご本人の気持ちを尊重し対応。シャワー浴での入浴を勧めてみたりし支援をしている。	入浴が休みの曜日もあったが、今後は休みを限定しないで午前や午後の時間帯での入浴を考えている。本人の希望で週2回以上入浴したり、身体状況に応じてシャワー浴にすることもある。入浴剤などを利用し、会話をしながら楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の習慣を把握し、体調などを考慮したりし休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、その都度申し送りをしてもらい、容量や服薬のタイミングなど細かく確認理解をして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事を状態や体調を見ながら行ってもらい職員と談笑しながらのお手伝いなどで気分転換を支援している		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為、必要以上の外出は自粛しています	感染症の流行により外出する機会は少なかったが、窓を開けて外気に触れたり畑の作物を収穫することもあった。受診時に車窓から景色を楽しんでいる。感染症収束後は、近隣の公園を散歩したり、季節感を楽しみながら花見や紅葉見学に出かけたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様が行き、ホームでの生活に必要なものは、ホームで立替し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望の際は、遅くない時間での対応を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアごとに季節のディスプレイを飾り、ひとめでその行事がわかるようにしております。窓を開け換気する際にも声掛けを少しの間だけ開けさせてね、と伝えて換気している。	居間や食堂、台所を中心に居室を配置した明るく開放感のある造りになっている。利用者と一緒に制作した折り紙細工の雛飾りなど、季節に応じた装飾がさり気なく施されており家庭的な温もりが感じられる。新聞やゲームなどもあり、利用者は好きな場所でゆっくりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に応接セットがあり、テレビを見ながら利用者同士で談話していることもあれば、食事席でずっとお話されている方もいたり、お部屋に戻りTVを見てたり休息されたり自由に過ごさせています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、クローゼット以外はご自分の使い慣れたものなどを持ち込まれ居心地よく過ごされています	居室には、介護ベッドとクローゼットが備え付けられている。タンスやテレビ、仏壇などを持ち込んだり家族の写真や縫いぐるみを飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。好きなラジオを楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり1人のできる事や分かることを見極め声掛けしながら安全に生活できるように支援している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ 2階ユニット		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10-17		
自己評価作成日	令和3年3月4日	評価結果市町村受理日	令和3年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和1年10月に、篠路から新築移転をしました。既存の入居者はもちろん、増床をし以前の1ユニットから2ユニットになり広々と新しい施設で穏やかに過ごしています。住宅街ということもありとても静かな場所です。JR拓北駅も徒歩5分ほどです。緑が多くあり春夏秋冬を感じることができます。近隣には公園も多くあり、お天気の良い日にはお散歩に行ける環境ですが、移転後やっとな雪が解け気温も高くなったころ「コロナ」で外出が出来なくなってしまいましたが今後は近隣を散歩してみたり、公園へ行ってみたいと考えています。コロナ禍で実現できていませんが、施設には交流室を設けており、地域の方と繋がりを持てる場所になればよいと考えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170200802-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの壁に掲示しており、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入しており、ご近所との交流があるが、コロナ禍のためそれ以上のことはできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者が日中不穏になり、助けを求めホームに来院することが数回あり、ご家族も安心してくださっていたことがありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為書面会議となり、施設の様子や行事報告、職員状況など報告をしています。返信用封筒を入れるがご家族からの意見や要望などはない		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや区役所など、わからないことを聴いたりアドバイスを貰ったりし協力を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時と半年に1度身体拘束についての研修を行って全職員が理解している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながることをないよう研修し、不適切なケアにならないよう注意をしている		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使用していた入居者もいたため理解のある職員も多い。今後も活用する機会があれば活用できるようにしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学時に、説明を行い契約時にも不安のないように説明している。解約時にも相談に乗りその方にあった環境へ導く努力をしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通信を使って一人一人の状況を書き込んだり、お電話などでも詳しくお話し要望があればすぐに反映できるように努めています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から挙がってきた意見や提案には、話し合い調整をかけ、やってみてどうだったかと再度調整し反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、休日希望など個々に日ごろから話しており、各自役割をもって努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修やキャリアアップの制度を使い、職員を育てる取り組みをしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為会議などないが、以前北区の役員を行った時の他事業所との繋がりがあるので、時々お話しどんな活動をしているのかなど聴いたりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から聞き取りを行い、それをもとにご本人との距離を縮めながらご本人が何でも話せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定時からたくさんお話しし、ご家族の不安を取り除くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意向を踏まえたうえで、現状を見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	通信やお電話が来た時などに、ご家族には詳しくお話しを行い集団生活に馴染んでいくよう関係を乱さないようお手伝いしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は禁止されていたのですが、希望される家族にはオンラインでの面会や通話、ご家族によってはお手紙を送ってこられるのでご本人にお渡ししご家族との関わりを維持していただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親族との関わりは継続されており、オンラインでの面会にもお孫さんや玄孫との面会もされる方もおり関係は築けています。馴染みの病院へ継続で家族同行し受診をされている方もおり、異変の時にもすぐに対応してもらえ入院を優先してもらえたこともありました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でもいろんな方が居るので対立することも多々あります。個々の性格を把握しておりますので職員はうまく話を方向を変えてみたり、お手伝いをお願いしたりし支援しています		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養や特養へ転居された方のところへは、時々面会に行きご家族へのフォローなども支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や状態を確認し、本人の意向に沿うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りから、どのような暮らしをしてきたのか、ここに入居するまでの経緯などをみて過ごしやすいようにリズムを作るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人過ごし方は違いますが、その日の体調、表情などにより休息してもらったり、お手伝いを一緒にしたりそれぞれ違います		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、常時身体の状態とを照らし合わせ介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使用し記録を入力しているが、特変はケースに入れ、申し送りをし相談し取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望になるべく近づけるよう対応をまずは試してみ、今後へつなげるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しています。コロナ過で何もできていませんが、近隣の散歩や交流室を使用して近隣住民とのつながりを図り楽しんで生活できるようにしたい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて家族の希望を報告しながら適切に行っている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護があるので、その都度一人一人の状態等報告し主治医の方へも伝えてもらったり、適切なケアの仕方を指導していただいたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携先の医療機関とは、日頃より密に報告連絡相談をしており、信頼関係ができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族にはなるべく早い段階で、お話をし主治医と相談をしながら事業所としてできることを入居者、ご家族にも説明をし支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	情報として共有しており、全員が対応できている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、新しい職員にも指導している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格、性格その時の様子などから言葉かけをし、その方を尊重し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入床時、起床時、入浴時に本音が出やすいため特に入浴時は傾聴をしご本人の思いを受け止める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる範囲でその方の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びなど職員と一緒にいたり、身だしなみなどもお手伝いしています。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様の一番の楽しみが食事なので個々に食べやすい大きさにし、ご自分で召し上がれる工夫をしたり、片付けなど一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が献立を作り、水分は提供した分はしっかり飲んでいただくよう声掛けをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の終わった方から声掛け又は誘導をし口腔内、介助の必要な方にはお手伝いしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表があり時間で誘導する方、あるいは時間が空きすぎているなど確認をトイレでの支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量など日々確認しストレッチ体操などを取り入れ、その方に合った方法で予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお誘いをし、気乗りしない際には強要せずご本人の気持ちを尊重し対応。 シャワー浴での入浴を勧めたりし支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の習慣を把握し、体調などを考慮したりし休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、その都度申し送りをしてもらい、容量や服薬のタイミングなど細かく確認理解して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事を状態や体調を見ながら行ってもらい職員と談笑しながらのお手伝いなどで気分転換を支援している		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為、必要以上の外出は自粛しています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様が行い、ホームでの生活に必要なものは、ホームで立替し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望の際は、遅くない時間での対応を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアごとに季節のディスプレイを飾り、ひとめでその行事がわかるようにしております。窓を開け換気する際にも声掛けを少しの間だけ開けさせてね、と伝えて換気している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に応接セットがあり、テレビを見ながら利用者同士で談話していることもあれば、食事席でずっとお話されている方もいたり、お部屋に戻りTVを見てたり休息されたり自由に過ごさせています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、クローゼット以外はご自分の使い慣れたものなどを持ち込まれ居心地よく過ごされています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり1人のできる事や分かることを見極め声掛けしながら安全に生活できるように支援している		

目標達成計画

事業所名 グループホームからまつ

作成日：令和 3年 4月 13日

市町村受理日：令和 3年 4月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	転居後コロナ過となりなかなか町内会長との関りが持てず、運営推進会議なども書面となってしまう地域との関わりがしっかりとれていない。	運営推進会議の意見や避難訓練の協力を得られるようにする。	運営推進会議や通信などでからまつの様子を知って頂きながら、関りをもって協力を仰ぎながらすすめていきたい。	6カ月
2	35	コロナ終息後には、消防や町内会の参加が得られるよう避難訓練を実施したい。	避難訓練やAEDを使った救命講習を行いたい。	コロナ禍の為入館制限があるが、終息したときには救命講習や避難訓練など地域の方が参加できるような工夫をし、やっていきたいと考えています	6カ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。